

信本タウン情報株式会社
編集・広告制作部
松本市西2-10 西郷ビル5F(〒390-0801)
TEL0262-28-9030 FAX28-0744
松本市大4-10-16(本社)
TEL0262-28-1130 FAX28-2055
信本タウン情報2004

100,200部発行

タウン情報

松本・塩尻・東筑摩・南安曇・池田・松川

発行 1月21日(水)
配達 20、21日
(週3回発行)

大 部
信 医 学

寄付金で新講座

信大医学部(大橋俊夫学部長)は4月、同大学としては初めて、企業などの寄付金で講座を開設、運営する「寄付講座」をスタート。新たな治療法の開発に挑戦する。また、こうした講座での研究のほか、眠っている特許や実用化に結びつく成果を有効に使うため、知的財産活用センターを設置する計画で、今春の独立行政法人化への対応を本格化させている。



寄付講座について説明する大橋学部長(右)と池田教授

知的財産活用センターも設置へ
特許や成果を有効に

寄付講座は、大学医部 創製医学講座の池田千一 臓病の再生医療がメイン。学術研究開発推進部長 教授(兼任)のほか、助で、治療技術や医薬品の学術系専攻の新講座。教授と助手を配置。心臓 臓病に取り組み、手再生医学講座。臓病発生 細胞(心臓)など心 防などの基礎研究をする。

寄付するのは大塚製薬

心臓病再生治療に取り組み すべて公開 企業に提供

(東京) 同大学によると、大塚製薬は再生医学にかかわる薬品開発に力を入れており、当面は4月からの3年間、年間2000万円の寄付金を提供する。研究の成果はすべて公開、実用化できた場合は優先的に大塚側に提供することとしている。池田教授は「心臓再生医療、治療に使う細胞組織が特許的に心臓に繋がる処理をすることで、手術せずに注射で済む。患者に優しい治療法、のめども立っており、薬剤の製品化などさまざまな可能性を秘めている」と話す。

一方、知的財産活用センターは、当面は大橋学部長をセンター長に、特任教授の千原茂俊・分子薬理学教授、コーディネーター(非常勤)の藤村キッセイ薬品工業研究所長ら3人体制で、▽活用

全体でも産学官連携

同学部は独立行政法人化後、交付金の総額の減額が予想され、外資系企業の導入が急務だった。学部長が企業と連携して、研究の成果を有効に活用し、新たな治療法の開発に挑戦する。また、こうした講座での研究のほか、眠っている特許や実用化に結びつく成果を有効に使うため、知的財産活用センターを設置する計画で、今春の独立行政法人化への対応を本格化させている。

【岡本隆志】